

株式会社 西城菊花園



経営のプロフィール

経営概要

- 生産規模 ・ 露地ぎく (180a)
・ 施設ぎく (4,600㎡)
- 生産・出荷量
・ きく類切花生産量 (約450,000本/年)
・ 加工花束出荷量 (約40万束/年)

主な施設・機械の保有

- ・ 鉄骨ハウス1棟 (1,100㎡)
- ・ パイプハウス13棟 (3,400㎡)
- ・ トラクター2台 (28PS, 24PS)
- ・ 管理機1台 ・ 結束機4台 ・ 選花機1台
- ・ 重油暖房機1台 ・ 木質バイオマスボイラー1台
- ・ 土壌蒸気消毒機1台
- ・ 予冷库1台 ・ 作業場 (260㎡)

構成員等

- 構成員 (役員) 4名, 常時雇用1名
- パート従業員5~15名

法人設立年月日

平成24年1月5日

認定農業者認定年月日

平成23年12月21日 (西城正人氏)

資本金

300万円

販売額

9,000万円 (平成27年)

役員名

代表取締役: 西城 正人
取締役: 西城 光之, 西城 厚子, 西城 幸子

主な過去の導入事業及び農業制度資金活用

平成26年みやぎ環境税事業/木質バイオマス
活用拠点形成事業 (木質バイオマスボイラー)

1 現在の経営内容等

(1) 経営理念, キャッチフレーズ等

- 感謝の気持ちを忘れず, 社員とその家族が幸福に生活できる企業を目指す。
- 新しい「農業価値」を創造し, 地域・社会に貢献する。

(2) 栽培技術の特長

- きく類の露地及び施設栽培に取り組んでいる。夏作を中心とした露地栽培では, 各品種の開花時期を把握し, 複数品種を同時に作付けすることで, 需要期の適期出荷を実現している。また, 施設栽培しているスプレーぎくは, 購入苗を利用することで, 親株管理, 苗生産の手間を省き, 施設回転率の向上を図っている。
- 木質バイオマスボイラーを導入し, 地元の間伐材を燃料として用いることで, 冬季の暖房コスト低減を図っている。
- 近隣の畜産農家が生産する牛ふんたい肥を用いた土づくりを実践する他, 施設の全ほ場で土壌蒸気消毒機による土壌消毒を年1回実施している。

(3) 販売の特長

- 自家生産したきく類に加え, 市場から仕入れた切花を花材として用い, 花束の加工販売を周年で行っている。
- 自ら販路を開拓し, 直売所やスーパー等, 約30店舗と取り引きを行っている。花束の鮮度を維持するため, 出荷物の管理は販売店に任せるのではなく, 極力自己管理しており, ほぼ毎日全店舗を巡回している。
- 一部の切花を東京市場の仲卸業者に直接出荷している。

(4) 経営組織の特長

- 法人形態は一戸一法人。営業活動, 生産工程管理は主に代表取締役が担当し, 労務管理, 財務管理は他の役員が受け持つことで分担し, 栽培管理作業は全員で行っている。

(5) 労務管理の特長

- 作業工程別に役割を分担しており, 脇芽かきや定植作業, 花束加工等, 軽作業は主に女性陣が行い, 農機を活用したほ場整備等は男性陣が行っている。
- 出荷繁忙期の一定期間は, 地元シルバー人材センターの仲介により, 地元高齢者をパート雇用することで季節労働力を確保している。

(6) 経営管理の特長

- 担当の役員がパソコンを活用して, 毎月の収支状況を把握するとともに, 定期的に会計士の指導を受けながら適切な会計処理に務めている。

(7) その他の特長

- 役員である西城光之氏は, 指導農業者として本吉地区農業士会会長を2期務め, 近隣地区農業士会との交流を企画する等, 地域を越えて農業士間の連携促進を図った。

2 これまでの経過

(1) 法人化するまでの特徴的な歩み

- 以前は養蚕業を営んでいたが, 約20年前に輪ぎく栽培を導入し, 経営の主軸品目をきく類に切り替えた。
- 平成16年から加工花束の直売所出荷を開始した。その後, 鉄骨ハウスを導入することで切花生産と加工花

束の出荷を周年化した。

- 現在の代表取締役である長男が8年前に就農した際, 家族内で検討し, 切花から加工花束へ主な出荷形態を切り替えることとし, 販路開拓に取り組むことにした。

(2) 法人化の動機や法人設立時の特徴的経過, 法人化後の変化

- 営業活動が実り, 直売所出荷や地元スーパーとの契約販売等, 複数の販路が開拓されたことから, 耕作放棄地を借入れする等して, きく類の作付け規模を拡大し, 切花の生産量, 加工花束の出荷販売量を増やした。
- 出荷販売量の増加に伴い, 明確な経営管理の必要性を強く意識するようになり, 県担い手育成総合支援協議会の専門家派遣事業を活用し, 様々な助言を得ることで, 法人設立を決意した。
- 生産規模, 販路が増え, 一定の売上確保に目処が立ったことで, 人員確保が必要になり, 平成24年に次男が就農し, 社員として会社に加わった。

3 今後に向けて

(1) 解決すべき課題と現在検討中(取組中)の対処方策

- 夏作輪ぎくの露地栽培では, 規模拡大に伴い適期出荷の重要性が増しているが, 近年, 気候の温暖化に伴い, 開花時期の年次変動が大きくなってきている。各品種の開花特性を踏まえた栽培ができるよう, 作業工程管理技術の確立が必要である。

(2) 今後に向けての経営戦略

- 震災で仕事を失った地元の方々を雇用することで, 就業機会の確保を図り, 地域活性化に繋がりたいと考えて

いる。

- きく類の栽培技術を社内全体で共有できるように, 社内研修の充実を図りたいと考えている。

(調査: 本吉農業改良普及センター)

略図



株式会社 西城菊花園

〒986-0782 本吉郡南三陸町入谷字水口沢30
TEL 0226-46-6365 (FAX兼用)

視察受入条件

農繁期は不可

視察申込は直接当社へ
常識的範囲の依頼に対応